

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 19 章 パート 1

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

聖書を取って黙示録 19 章を開いて下さい。

もうすぐ黙示録が終わるなんて、信じられません。

さて、皆さんに質問です。今夜、ディナーを食べたいですか？それともディナーになりたいですか？なぜなら、それが、最終的には 19 章で浮かび上がってくる問題だから。

19 章は、2 つのディナー、2 つの夕飯について書かれていて、只今予約受付中。

全員がどちらかに参加することになっていて、1 つは勿論花嫁のためのもの、小羊の婚姻の祝宴です。2 つ目は鳥たちのもの。ハルマゲドンの戦いのメギドで開かれます。

片方は栄光に満ちて美しく、もう片方は血生臭く残忍で悪に満ちています。

皆さんには、1 番目を目指すようにお勧めしますよ。

現在黙示録 19 章。患難時代の終わりにさしかかっています。患難時代とはある期間の事で、それが書かれているのが黙示録？ (6 章から 19 章) その通り！なぜ知っているの!?

6 章から 19 章に書かれていて、期間は全部で 7 年間。その間に神は、キリストを拒絶した罪の世界に御怒りを注がれ、世にさばきを下されますが、教会は地上におらず、無事天に上げられています。

どうしてそれが分かるかと言うと、教会が天にいる様子が書かれている章は？ (4 章と 5 章) 教会は 4 章と 5 章では無事に上げられ、御座の回りにいます。

次に続くのが 6 章で、患難の始まり。4 章と 5 章が 6 章の前に来るのは、今も昔もこれからも変わりません。そうです。皆さんは以前これを聞きましたね。

4 章と 5 章で教会は天国、主がご自分の民を安全にかくまった後、6 章から 19 章の患難が始まります。

そして、今回いよいよ患難時代の終わりに来ました。話は続きます。

この後（黙示録 19:1）バビロン崩壊後、その都が焼かれた後、
この後、私は、天に大群衆の大きい声のようなものが、こう言うのを聞いた。

「ハレルヤ。救い、栄光、力は、われらの神のもの。（黙示録 19:1）

神のさばきは真実で、正しいからである。神は不品行によって地を汚した大淫婦をさばき、ご自分のしもべたちの血の報復を彼女にされたからである。」（黙示録 19:2）

彼らは再び言った。「ハレルヤ。彼女の煙は永遠に立ち上る。」（黙示録 19:3）

すると、二十四人の長老と四つの生き物はひれ伏し、御座についておられる神を拝んで、「アーメン。ハレルヤ」と言った。（黙示録 19:4）

バビロンは既に打ち砕かれていて、前回学んだ通り、地上の人々は、地上の商人たちは彼女のことで泣き悲しみます。（黙示録 18:11）

「我々の文化、社会、組織の中心である商業の核心がなくなってしまった！」と言って嘆きます。

でも、天国では喜んでいのです。面白いですね。

1 節、3 節、4 節で、天で叫んでいる「ハレルヤ！」という言葉は「主よ。賛美します！」という意味。4 節で人々が「ハレルヤ！主よ。賛美します！アーメン！」と言いますが、これは、成熟した長老たちがすることです。

「アーメン！」の意味は「そのようになりますように！」

興味深いのは、このハレルヤとアーメンの 2 つだけが、世界中で共通して使われている言葉で、世界中どの国に行っても、どの文化であっても、「ハレルヤ！」「アーメン！」と言えば理解され通じるのです。

話の文脈を頭に置きながら、どんどん明らかにしていきます。

町が滅ぼされたのですから、人間の自然の反応なら、「ちょっ…主よ？」「ちょっと残酷過ぎませんか？」「主よ、ここで 45 kg の雹が本当に必要だったのですか？もう少し小さくても良くないですか？せめて 15 kg くらいとか。45 kg もの雹が人々を打ち叩き、町が破壊され、惑星が落ちて来て、なんと血生臭い!!!」「主よ。本当にここまでする必要があるのですか？」

私たちは地上では様々な疑問を持ちます。「主は何をされているのだろう？」「神はなぜこんなことを許されるんだ？」「この困難、この悲劇、この痛み。どうして主は、私にこんなことが起こるのを許されたのか!？」

でも見て下さい。19 章は、天国ではそんな疑問を持たないということを語っています。

それは、疑うことを許されていないからではなく、「質問禁止！」なんて看板が立っているからでもなく、全くそんなことはなく、天国、あなたや私が天国に行った時には、全体像が見えて全てを理解するからです。ものすごく残酷に見えることも、とんでもなく悲惨で痛々しく見えることも、全く無用に見えることも、天国に行ったら分かるのです。

「神のさばきは正しい。」（黙示録 19:2）

「主よ！今なら分かります。」「ハレルヤ！主よ。賛美します！」「アーメン！その通りになりますように！」

天国では疑問を持ちません。それが禁じられているからではなく、遂に神の計画の全貌を見ることができるようになるからです。

「なら、どうして今見せてくれないんだ？」それは、主が、目で見えるものではなく、信仰によって歩め、と教え叩き込んでいるから。

「なぜだ!!!」主がそれを望んでおられるから。それは絶対に必要なのです。

主は、皆さんと私に信仰によって歩むことを余儀なくされるのです。

今、私たちに見えているのは、

今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見えています (I コリント 13:12)

でも天国に行ったら、顔と顔を合わせてはっきりと見ます。それは、顔と顔を合わせる時、突然目の覆いを取り去られるから。そして言います。「完璧です!!!!」「主よ。あなたのさばきは真実で正しい!!!!」

「素晴らしい！主よ。あなたは正しい！」

それまではブツブツと文句を言って嘆いていたのに、天国に行くと「主に栄光あれ！完璧です。」「主よ。あなたは天才だ。」「あなたは本当に…わお…！」

「それはそうけど…」と言いたいでしょうか。

「私も天国に行ったら、きっと“アーメン！ハレルヤ！あなたは正しい”と言うんだろう。でもジョン、それは先の話で、今の自分には何の役にも立たないよ。」「今は、天国のシオンの丘にいるわけじゃないし、今のこの状況をどう解釈すればいいんだ？」

ごもっともです。あなたは天のシオンにはいません。でも他の丘に上ることで、同じ視点から見えるようになります。それが、カルバリーの丘です。

カルバリーの丘に上って、主が私を愛するが故に、私の代わりに十字架にかかって死ぬ姿を見ると、私も言えるようになるのです。

「主よ。あなたがなぜこのような困難、悲劇、痛みをお許しになったのか、今の私には理解できません。でもあなたを信頼します。なぜなら、あなたは私の代わりに十字架にかかれたから。私を愛しておられ、私があなたと共に永遠を生きることを望んで、私の罪を贖って下さったから。

だから主よ。あなたの御手を、釘が貫き通した穴を見ると、私にも言えるのです。

主よ。私の人生を、妻を、子供たちを、私の全てをあなたの御手の中に差し出します。

私と家族のために十字架に打ちつけられたあなたの御手を見て、私は心からあなたを信頼します。あなたがそれほどまでに愛して下さるから、今はまだ理由が分からなくても、あなたを信頼できるので。」

天国で 24 人の長老たちが言っています。「ハレルヤ！主を賛美します！アーメン！」

いつ？ バビロンが煙になった直後。人々が遠く離れて嘆き悲しんだ直後。血が流され人々が呻いた直後。

成熟した長老たちは言っています。「主は真実で正しい！ハレルヤ！アーメン!!!!」

次に登場するのはチアリーダー。

また、御座から声が出て言った。「すべての、神のしもべたち。小さい者も大きい者も、神を恐れかしこむ者たちよ。われらの神を賛美せよ。」(黙示録 19:5)

また、私は大群衆の声、大水の音、激しい雷鳴のようなものが、こう言うのを聞いた。

「ハレルヤ。万物の支配者である、われらの神である主は王となられた。(黙示録 19:6)

私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。

小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから。(黙示録 19:7)

ここで、1 番目のディナーがやって来ました。

患難はようやく終わりに近づいて、間もなく終了します。

小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから。(黙示録 19:7)

花嫁は、どのようにして準備を整えたのでしょうか。

小羊の妻、キリストの花嫁、つまり皆さんと私は、どのように準備をするのでしょうか。

すると彼らはイエスに言った。

「私たちは、神のわざを行うために、何をすべきでしょうか。」(ヨハネ 6:28)

彼らは、きつとリストをもらえんと思っていたことでしょうか。

ところがイエスが、「これが神のわざだ」と言ったのは、1 つだけ。

「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」(ヨハネ 6:29)

これだけ！それは、何かを行うことではなく、主がして下さったことを握りしめること。それだけです。たった 1 つ。神が遣わした者を信じること。(ヨハネ 6:29)

こうして準備を整えるのです。

花嫁は、これは私たち。キリストの花嫁。光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行いである。」(黙示録 19:8)

ここであなたは言うでしょう。「ほら！ジョン！ここ見てよ。麻布のウエディングドレスは“聖徒たちの正しい行いである (黙示録 19:8)” これは、我々の行いを、してきたことを言ってるんだ。」

これから言うことを書き留めて下さい。

“聖徒たちの正しい行い” については、イザヤ書 61 章で説明されています。

わたしは主によって大いに楽しみ、わたしのたましいも、わたしの神によって喜ぶ。

主が イイですか？ 主がわたしに、救いの衣を着せ、正義の外套をまとうせ、花婿のように栄冠をかぶらせ、花嫁のように宝玉で飾ってくださるからだ。(イザヤ書 61:10)

つまり私たちは、主の正義をまとうのです。私の行いではありません。

主の正義は、主が私を包んで下さる外套です。主の正義。いいですか？

イザヤ書 64 章では、私たちの義はみな、何だと書いてありますか？

私たちの義はみな、不潔な着物のようです。(イザヤ書 64:6)

自分自身の用意を整える。花嫁の皆さん、聞いて下さい。

自分自身の用意を整えるには、主がカルバリーの丘で、あなたのためにして下さったことを握りしめるだけ。それ以外の何かをしようと頑張ることではありません。

それ以上でも、それ以下でも、それ以外でもなく、主がカルバリーの十字架でなして下さったことが全てです。以上！

これが大事なことで、これが全てです。私たちに与えられた主の正義。主が私たちのためにして下さったことを握りしめる。これが、私たちの準備なのです。

花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。

その麻布とは、聖徒たちの正しい行いである。」(黙示録 19:8)

御使いは私に「小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ、と書きなさい。」と言い、また、「これは神の真実のことばです」と言った。(黙示録 19:9)

「小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ。」私たちは全員招かれて、みんな義の衣を着せられます。全ては主が事を成し遂げて下さったからです。

この時点で、ヨハネは義の衣を着せられて用意が整った花嫁を見て驚きました。

彼は御使いのメッセージに大変驚いて、その話を伝えに来た御使いを、

そこで、私は彼を拝もうとして、その足もとにひれ伏した。

すると、彼は私に言った。「いけません。」(黙示録 19:10)

「ヨハネ！ 拝んではいけない！ 私を拝んではいけない！ 友よ。それをしてはいけない！」

「私は、あなたや、イエスのあかしを堅く保っているあなたの兄弟たちと同じしもべです。神を拝みなさい。イエスのあかしは預言の霊です。」(黙示録 19:10)

「私を拝んではいけない。私もあなたと同じしもべだから。」と、この御使いは言いました。

不思議なのは、モルモン教徒は天使“モロナイ”を拝んでいます。ジョセフ・スミス（*モルモン教の創始者）がまさしくそうで、モロナイが崇められています。

コロサイ人への手紙にはこうあります。

御使い礼拝をしようとする者に、ほうびをだまし取られてはなりません。(コロサイ 2:18)

ここではヨハネが、まさに御使いを拝もうとして言われました。「拝んではいけない！」

これは、モルモン教徒が聞くべきみことばですね。

ものみの塔、エホバの証人も同様です。彼らは、イエスと大天使ミカエルは同一の実体だと言います。でも、待って。

もし、イエスと大天使ミカエルが同じだとすると、旧約聖書のミカエルが新約聖書のイエスだとすると、エホバの証人の言うことが正しければ、イエスは罪を犯したことになります。なぜならイエスは、礼拝されることを何度も受け入れていましたから。

これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから」と言った。(ルカ 5:8)

トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」(ヨハネ 20:28)

と、ひれ伏して主を礼拝しました。

人々がひれ伏してイエスを拝む姿は、福音の中に何度も出てきます。それに対してイエスは「わたしを拝むな。わたしはただの御使いミカエルにすぎないから。」とは、決して言いませんでした。主は礼拝を受け入れました。それは、主が御使い以上の方だから、主は人の姿をした神だからです。

しかしここでヨハネは、用意が整えられた花嫁の麗しさ、美しさに驚愕し、なんと、ひれ伏して御使い

を拝もうとしてしまいます。御使いは「止めなさい。拝んではいけない。」

また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実また真実」と呼ばれる方であり、義を持ってさばきをし、戦いをされる。(黙示録 19:11)

その目は燃える炎 (のよう) であり、その頭には多くの王冠があつて、ご自身のほかだれも (その意味を) 知らない名が (それに) 書かれていた。(黙示録 19:12)

花嫁の用意が整い、次に書かれていることは、“開かれた天を見た”

因みに預言を学んでいる人は、この部分を理解しておいて下さい。

黙示録の中で、天が開かれるのは 2 回だけ。

初めに開かれるのは 4 章 1 節。これは教会の携挙についてです。

天の門が開かれ、ヨハネは幻の中でいわゆる携挙、天に挙げられて、教会は御座の回りに連れて行かれます。天の門が開かれる。これは携挙です。

そして 19 章 11 節で、再び天が開かれます。

私は開かれた天を見た。(黙示録 19:11)

でも今回は携挙ではなく、天が開いて、イエスが地上に下りて来られるのです。

その時、誰と一緒に降りて来るでしょう？ 私たちです。

黙示録 4 章の携挙と 19 章の再臨は、2 つの異なる出来事です。

その間にどれだけの期間がありますか？ 7 年間。なぜ 7 年間なのかは以前話しましたね。7 日間ですよ。皆さん。

(*ユダヤの結婚式では) 花婿が花嫁のために用意した部屋に花嫁を連れて行き、彼女の姿は 7 日間、外から隠されます。そして 7 日間が終わったら結婚の祝宴。その時、花婿がその部屋から花嫁を連れて出て来ます。

イエスも言いましたね。「わたしは場所を備えに行くのです。」(ヨハネ 14:2)

7 年の後、主も私たちを連れて外に出ます。7 日後に、花婿が花嫁を連れて外に出るのと同じです。そして花婿は花嫁を世に披露します。同様に、私たちの花婿イエスも、7 年の後に私たちを披露します。私たちは遂に世に出て来るのです。

主は雲の中で、携挙された私たちと会い、再臨の時には、私たちと共に地に来られます。

これは、2 つの異なる事柄であり、美しい婚姻の描写の内に成就します。

天が開かれ、主が馬に乗って下りて来られ、私たちは主の後に続くのです。

私たちは主の花嫁だから。

つづく

その日、ユダの地でこの歌が歌われる。

私たちには強い都がある。神はその城壁と塁で私たちを救ってくださる。

城門をあけて、忠誠を尽くす正しい民を入らせよ。

志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。

その人があなたに信頼しているからです。(イザヤ書 26:1 - 3 新改訳 2017)